



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

千葉市で一都三県議会議長会

伊藤議長、会議を円滑進行

地方自治発展へ意見交換



一都三県議会議長会で開会の挨拶をする伊藤昌弘議長

県議会の円滑な進行に手腕を発揮している伊藤昌弘議長は、他の都道府県議会議長とも交流を深め、地方自治発展のための情報収集、意見交換を行っています。千葉市で開催された「一都三県議会議長会」では、開催県の議長として、1都3県の正副議長による状況説明や質問・応答の司会役を務めました。その模様を、令和6年度県予算の概略、農林水産常任委員会での質疑・答弁とともに紹介します。

千葉県をはじめ東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、千葉県議会がこのほど、千葉市で開催され、伊藤昌弘議長が議長を務めた。1都3県が共通して抱える課題について協議しました。

同議長会は地方自治の発展に寄与するため、毎年持ち回りで開催されている会議で、今回はデジタルツールを活用した議会の情報発信の充実についてをテーマに意見が交わされました。冒頭、能登半島地震の被災者にお見舞いと二日も早い復旧を祈った伊藤議長は、「議会手続きのオンライン化の検討、主催者教育の推進などの先進的な取り組みや、意見をお聞かせいただき、各都県議会における情報発信機能の充実・強化に生かしていきたい」とあいさつ。その後、山本義一副議長

が千葉県における議会情報発信の状況について説明しました。リニューアされたホームページ、インターネットによる議会中継、SNSによる議会情報発信などについて山本副議長から説明が行われた後、それぞれの都県が議会情報発信の状況について発言。それに続くフリートークでは、神奈川県議会が試みている県庁舎以外の場所に出向いての特別委員会開催などについて、質問と応答がありました。

会議の後、一行は日本サッカー協会が整備した、サッカー日本代表のトレーニングキャンプにも使用されるサッカーフィールド「高門宮記念JFA夢フィールド」を視察。フットボール振興や地域の活性化が期待されているとの説明にうなずいていました。

JFA 夢フィールドを視察



一都三県議会議長会に出席した各都県議会の正副議長

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略歴
- ◆昭和30年 佐倉市に生まれる
- ◆昭和53年 日本大学法学部卒業
- ◆平成7年 佐倉市議会議員当選
- ◆平成11年 佐倉市議会議員再選
- ◆平成19年 千葉県議会議員当選
- ◆平成23年 千葉県議会議員再選
- ◆平成27年 千葉県議会議員3選
- ◆平成31年 千葉県議会議員4選
- ◆令和5年 千葉県議会議員5選

- 現職
- ◆千葉県議会議長
- ◆日大習志野高校同窓会 会長
- ◆佐倉リトルシニア野球協会 会長

●県政や佐倉市・酒々井町のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談ください!!

伊藤まさひろ 県議事務所 〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
 TEL.043-485-8019 FAX.043-486-1616

動き出した令和6年度県当初予算一般会計

2兆1077億円 実質、過去最多に

防災対策に重点



県議会本会議の議長を務める伊藤昌弘県議

2月定例県議会で可決成立した令和6年度県当初予算の一般会計は2兆1077億円で、前年度より4.1%減りましたが、新型コロナウイルス対策費が大幅に減ったため、新型コロナウイルス対策費を除くと1兆957.2億円になり、実質過去最多になりました。

昨年9月の記録的な大雨で県内各地が被災したことから、当初予算では防災対策に重点が置かれています。このほか、経済の活性化、医療・福祉の拡充、子育て施策の充実などに58の新規事業が盛り込まれています。

令和6年度県予算の中からは、ビッグアップしていくつかの事業を紹介いたします。

- ・ 洪水で大きな被害を被った宮川の護岸整備、上流域や支川における河川改修や調節池を新設、田んぼタムへの導入を支援。
- ・ 自転車ヘルメットの購入費の一部を助成し、着用率向上を図る。
- ・ 成田空港や京葉臨海コンテナトにおいて、産業拠点創出や脱炭素化などを促進していくための調査を実施。
- ・ 外国人観光客の関心が高い体験観光プログラムの実施を支援。
- ・ 人手不足が深刻な観光・宿泊業における人材確保

に取り組み。

- ・ 稼げる農業の実現に向けて、経営規模の拡大を目指す農業者への支援を強化。
- ・ 北千葉道路や銚子連絡道路、長生グリーンラインなどの道路ネットワークの整備を強力に推進。
- ・ 災害時にも適切な医療が受けられるよう、災害医療を担う専門人材を養成。
- ・ 令和6年10月分から、児童手当の支給対象年齢を拡大するとともに、第3子以降の支給額を増額。
- ・ 男女共同参画や女性活躍推進の機運醸成に向けたシンポジウム等の開催や、困難な問題を抱えている女性への相談支援。
- ・ 障害のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、県立高校にエレベーターを設置。
- ・ 開館50周年を迎える県立美術館において記念事業や特別展を実施。
- ・ 理数教育や技能教科の指導充実を図るため、公立小学校に配置している専科教員の増員や、県立高校でのSTEAM教育に取り組む。

粒すけ、食味「特A」獲得を

2月県議会農林水産常任委員会



農林水産常任委員会に臨む伊藤委員

伊藤委員 令和5年産米の1等米比率は高かったが、食味ランキングで「特A」に届かなかった。要因を県はどのように捉えているのか。

生産振興課長 食味ランキングにおける審査については、食味官能試験で炊飯した米の外観、香り、味、粘り、硬さの5項目の総合評価で試験されます。

令和5年産については、コメが肥大する登熟期に高温に遭遇したことが、食味に影響し、「特A」に届かなかった一因と考えられています。近隣県でも同様の結果となっています。

「コシヒカリ」については、令和3年は全国の13産地で「特A」と評価されましたが、令和4年は8産地、令和5年は7産地と減少傾向となっています。

県産米のブランド力向上させるためには、「特A」の獲得は重要なことから、今後、詳細についてしっかりと分析してまいります。

伊藤委員 粒すけの「特A」獲得に向けて、どのように取り組んでいるのか。

生産振興課長 県では、調査ほ場を県内に4か所設置し、良食味に向けた試験栽培を実施するとともに、県農林総合研究センターにおいても、昨年度から試験研究課題として取り上げるなど、良食味生産技術の確立に向けて取り組んでいるところです。

また、昨年度から全農ちばと一緒に開催している食味コンクールに「粒すけ」部門を設けたところであり、このコンクールを通じて、生産者に対して良食味生産への意欲向上と技術向上を図りたいと考えています。

伊藤委員 食味コンクールが一番であった佐倉市の「粒すけ」が良食味となった要因を解析し、そのノウハウを広げてもらいたい。

また、地域の特性に合った作り方をし、全県で「特A」が獲得できれば素晴らしい。千葉県の将来を担うお米に力を入れたい。

伊藤委員 今後、これらの取組を実施するとともに、良食味生産に向けた施肥や水管理などの栽培技術を産地に情報提供するなど、「特A」獲得に向けて「粒すけ」の食味向上を図ってまいります。

高温障害に強い米開発へ

伊藤委員 高温障害に強いお米を千葉県としては開発研究しているのかどうか、その状況について教えてください。

課長 県農林総合研究センターでは、近年の地球温暖化に伴い、栽培期間中の高温障害による白米熟粒の増加などの品質低下が懸念されている中、県がこ

れまで育成した品種である「ふさおとめ」は、高温障害に強く、品質低下しにくい特徴を持っており、こうした品種を基準として、高温障害に強い特性を持ち、より食味のよい品種の育成について取り組んでいるところです。

伊藤委員 高温障害が続くと取れ高が少なくなったり品質低下が起る。「ふさおとめ」を軸にしなから、新たな、もっと高温に強いお米の開発を、千葉県も他県に負けず急いでいただいて、水田農業をしっかり守っていただくことを要望する。